第11回東大阪市高齢者地域ケア会議 企画運営会議 要旨

開催日　令和6年3月27日（水）午後2時より午後3時30分まで

協議内容

・東大阪市高齢者地域ケア会議　令和5年度機関等代表者会議について報告。

・東大阪市健康づくり課と地域包括ケア推進課より、令和 5 年度高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施について報告。

各機関の報告

1　各選出機関の活動状況について

【基幹型地域包括支援センター】

・2月の基幹型地域包括支援センター東大阪市社会福祉協議会角田が出席した個別支援策検討会議の開催件数は、虐待ケース52件、処遇困難ケース9件で合計61件だった。

【地域包括支援センター】

・3/21 地域包括支援センター連絡調整会議にて、2024 年度介護保険制度改正や地域包括支援センター運営支援システムについて情報共有を実施した。2024 年度からは居宅介護支援事業者が市町村から指定を受けて介護予防支援を実施できるようになる等、これまでとは異なる対応の必要性が予測されるため、滞りなく事業を遂行できるよう取り組んでいきたい。

【訪問看護事業者部会】

・役員会を実施し、令和5年度の振り返りと令和6年度の予定について話した。令和6年度もACPの研修を継続することや学術集会で事例検討を実施することを検討している。

【訪問介護事業者部会】

・報告事項なし。

【介護支援専門員連絡会】

・4/20 東大阪市介護支援専門員連絡会総会を開催予定。その後に「対人援助職を生きる～しなやかな心と身体の作り方～」というテーマで研修会を予定している。

【枚岡医師会】

・「がんや非がんの終末期での在宅看取りについて」をテーマとした第2回多職種連携会議を、2/22 南部地域、2/25 北部地域で開催した。

・2/24 クリエイション・コア東大阪にて第 11 回多職種連携研修会全体会を開催。168 人が来場し、26 人がウェブで参加した。

・4/18「終末期の鎮静」をテーマとした枚岡在宅緩和ケア研究会を実施予定。

・「今から考える私の終活プラン」をテーマに尊厳死について講演を実施予定。ACP に関しては今後も研修や広報活動をしていきたいと考えている。

・三医師会で実施している災害対策会議の取り組みとして、8/25 に災害を想定した医療機関の安否確認や事業継続ができているかを確認し、9/1 東大阪市合同防災訓練に協力しようと考えている。

【河内医師会】

・3/22 理事会を開催した。各理事より、令和5年度第2回在宅医療介護連携支援コーディネーター連絡会議、第96回英田地区認知症ケアネットワーク推進委員会、第11回在宅医療推進多職種連携研修会の報告がある。

・発熱患者の受診数のピークは過ぎたが、新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの受診者は依然として来院している。感染者数の減少に伴い、薬の不足は解消してきている。

【布施医師会】
・今後、ICT 委員会を東大阪市全域に拡大していきたいと考えている。関係機関と連携して実施していきたいと考えているため協力をお願いしたい。

【市立東大阪医療センター】
・新型コロナウイルス感染症の罹患者が減少したため病棟の面会制限を解除した。

【社会福祉協議会】
・2/6、2/13、2/20、2/27 にオレンジメンバー養成講座を開催した。参加者数は 11 人で、そのうち 5 人がオレンジメンバーに新規登録し、現在は 48 人がオレンジメンバーとして登録している。

【保健所】
・森永ヒ素ミルク中毒被害者対策事業の中で東大阪市は全国担当者会議や行政懇談会などの会議に参加して当事者や行政関係者と支援について共有する機会を作り、当市の支援者間で情報共有できるよう取り組んでいる。この中毒の身体への影響は未解明な部分が多いが、被害者の特徴は知的障害、脳性麻痺、てんかんなどの中枢神経系の障害を発症している人が多く、点状白斑などのヒ素特有の皮膚病変も見られている。被害者数は大阪府下で 1827 人。東大阪市では本人の同意を得た上で 39 人を障害被害者対象者名簿に搭載しており、6 人から支援の個別要請を受け保健師が訪問等の対応を行っている。被害者はそのミルクを飲用した事実があれば認定を受けることができ、毎年2～3 人が新しく認定を受けている。現在被害者は 70 歳前後であり介護サービスを利用することも考えられる。アセスメントの中でこの中毒の被害者だと判明した際は、公益財団法人ひかり協会の支援を受けている場合もあるため東大阪市健康部保健所に相談いただきたい。公益財団法人ひかり協会の取り組みは同協会のホームページに記載されているため確認いただきたい。

【地域包括ケア推進課】
・3/13 地域包括支援センター担当職員研修にて、近畿大学　講師　アサダワタル氏に「音楽を用いた介護予防教室」について講義を受けた。アサダ氏はアートで地域づくりをしており、東日本大震災の復興住宅で孤立していた高齢者の思い出の音楽を一緒に聴きながら人となりを見つけ、それをラジオとして高齢者に配布する活動をしていた。トルクひがしおおさかの音楽鑑賞ワークショップでも講師に招いており参加者に好評だった。この事業を通して新型コロナウイルス感染症の拡大により薄れた人のつながりを再構築できるのではないかと考え、今後地域包括支援センターが実施している介護予防教室で音楽鑑賞を実施するとともに、介護予防教室のあり方を研究していくこととしている。